

## 「細胞はどう身体をつくったか」を出版しました

全国山村振興連盟常務理事・事務局長 実重重実

この度、新曜社からの第3作となる「細胞はどう身体をつくったか -発生と認識の階層進化」(2700円+税) という著書を出版しました。

山村の振興に係わっておられる関係者の方々は、森林・林業関係者、農業関係者、行政関係者をはじめ、日々、生命を育み、自然と共存・共生しながら、自然からの恩恵に浴して仕事をされているものと思います。しかし一方で、昨今の情勢は、地球温暖化に伴う異常気象・災害の頻発、新型コロナウイルスに見られる疫病の流行というように、地球規模で生命を脅かす現象が多発しており、その最前線の現場で活動する方々は、日々こうした難題と格闘されているものと思います。こうした地球規模での難題と森林・林業・山村振興とは、生命という現象を通じて表裏一体なものでしょう。生命という現象を掘り下げてみたのが、本作です。

本書は「世界面白い発生学の本」を目指しました。あれもこれも、生物の生態というのはすべて、驚きに満ちています。そしてそれは、小さな細胞と細胞が対話して、集団になったり社会を形成したりする「発生」の現象によってできているのです。

単細胞生物から出発して、植物、カイメン・クラゲ・ウニ・貝類などの水生動物、昆虫、カエル、ヒトというように、進化のプロセスを通じて発生の現象を見ていきます。そして最新の科学的知見に基づいてそれらがどのように進化してきたのか、それらはどのように相互作用し合い、つながり合っているのかを解き明かそうとしました。

本の帯には、新曜社から次のように書いてもらっています。

「細胞は主体的な認識力を持ち、互いに対話する。その対話の流れが分岐して、多彩な生物となる。」

「遺伝子は、タンパク質の設計図にすぎない。細胞は遺伝子のタンパク質の設計図を読み取りながら他の細胞や外界とやりとりし、専門化し、階層化して、身体という巨大な社会をつくっていく。どうやって？ 驚きと知的な刺激に満ちた発生の進化の道筋を辿る旅」

平易な言葉で、多彩な生物たちの不思議な生態を見ているうちに、生物学の最先端まで迫り、やがてそれらピースの断片が組み合わさって、大きな1枚の絵となり、自然の体系が見えてくるように構成しています。

哲学者ハイデガーの「存在への問いかけ」から始めて、最後はそれに対する私なりの解答を示したつもりです。生物学だけでなく、生命哲学や存在論、音楽、文学といった分野も含めました。しかし、前2作の一部は、豊島岡女子中学・実践女子中学・関西大学・同志社女子大学の国語入試問題でも使っていたいただいているとおり、難しい文章ではありません。

生命とともに歩んでおられる山村振興関係者の方々にこそ、読んでいただきたい本です。

(注：お詫び) 前号で「亀次米」とあったのは、「亀治米」の誤りでした。